



小田 新紀 議員  
(拓政会)

**問** 北海道教育委員会は、教職員の超勤解消策として「学校における働き方改革」「北海道アクション・プラン」を策定した。

その中で挙げられている「学校閉庁日の設定」は、文字通り学校を完全に閉庁するもので、一見、新たな休暇を設けるようにみられるが、勤務上の取り扱いを「休暇」や「校外研修」とはしていない。年休・夏季休暇・振替などとしていたり、設定日がもともと休日である年末年始であるなど、運用に当たって懸念事項がみられる。本町における運用にあたり、以下について考えを伺う。

(1)勤務対応で、年次有給休暇を義務付けるのか。また、校外研修については認められるのか。

(2)日程設定ならびに日数について、各学校がそれぞれ判断することとが可能か。

(3)本取組による効果と課題の検証方法は。

**問 「学校閉庁日の設定」への対応は**

**答** 学校現場の実情に応じ、学校職員が休養をとりやすい環境整備に努める

**教育長**(1)道立学校においては、今年度、北海道アクション・プランに基づき長期休業期間（夏季休業期間）内の8月13日から15日までの3日間に学校閉庁日を設定することを基本とし、学校の実情に応じて設定することで取組を進めている。本町においても道立学校と同様の期間、学校閉庁日を設定することとした。勤務上の取り扱いは、年次有給休暇や特別休暇の取得等により対応していただく考えであるが、年次有給休暇等の取得は任意であり、希望しない職員に取得を強制することがないよう留意する。また、校外研修については、勤務上は勤務を要する日であり、校長が承認した場合については認めていく。

は、学校の取組状況を把握した中で、検証結果や国・道の働き方改革の動向を踏まえた新たな取組についても検討を進めたい。

北海道アクション・プランの主な取組

- コミュニティ・スクールの導入促進**
  - 学校を核として、地域全体で子どもを育てます
- 部活動休養日等**
  - 全ての部活動で休養日等を完全実施します
  - 休養日は、毎週1日以上、土曜-日曜は1日以上実施するほか、学校閉庁日（大合等の場合は別の日に実施）
  - 活動時間は、平日2〜3時間程度、土日-祝日、長期休業期間中は半日程度
  - 競技団体等に大会やコンクール等の実施を要請
  - ※スポーツの運動施設等の利用に際しては適切なガイドラインを構築し、必要な実施を行います
- 学校閉庁日**
  - 長期休業期間中に「学校閉庁日」を設定します
  - 夏休み、8月13日前後の特定の3日間（学校事情により異なることもあります）
  - 冬休み、年末年始の6日間（12/29〜1/3）
  - 基本的に職員は出勤せず、部活動も行いません
- 業務負担の軽減**
  - 民間団体等からの学校への依頼については、学校の負担軽減に向けた協力を団体等に要請します
  - 作文や絵画コンクール等への出席
  - 児童向け配布物
  - 地域のイベント等への参加

**問** スポーツイベントにおけるレガシーの取組を

**答** 子供達を軸とした事業を展開していく

**問** 本町では、オリンピック選手が数多く誕生し、大谷翔平選手の応援大使、古谷優人選手のプロ野球入団、三浦憂選手のFリーグ入団、そして、平昌オリンピックにおける高木姉妹の活躍、凱旋パレード&報告会と、他

に類を見ないスポーツ関連の大きな出来事が続いた。今後、こうしたイベントを一過性のものとせず、レガシーとして住民に還元、共有していくことが重要と考える。さらには、本町のスポーツ文化醸成への大きなきっかけにしていくべきと考え、町の見解を伺う。

(1)今後のスポーツ振興策についての考えと具体的な取組について。

(2)本町にゆかりのあるトップアスリートや町応援大使などを活用した今後の取組について。

**教育長**(1)運動施設と地域資源を生かした「オリンピックの町」をさらに発展させていくため、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を展開する。今年度の主な事業は、小学生を対象とした本町出身のオリンピック選手による学校訪問事業やスポーツ教室、「町民と考えるオリンピックの町創生ワークショップ」などを実施する。

(2)町の宝である本町にゆかりのあるトップアスリートの皆さんの協力をいただき、子供たちと触れ合う事業を継続し、応援大使の皆さんとは、町の魅力をさらに発信していたくために、どのような取組が可能なのか、協議を重ねたい。